

**公益社団法人 日本経営工学会**  
**第 32 期第 10 回理事会議事録**

日 時：平成 27 年 1 月 10 日（土），15:00～18:00

場 所：慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館 5F 大会議室

出席者：（理事）河野宏和，高橋勝彦，二ノ宮滋，篠田心治，松林伸生，西口宏美，伊呂原隆，  
後藤正幸，中出康一，熊谷敏，石井和克，皆川健多郎

（監事）水山元

欠席者：（理事）有菌育生

（監事）開沼泰隆

### 議決事項

#### 1. 第 32 期第 9 回理事会議事録の確認の件

庶務担当理事より，（資料:10-1）に基づき第 32 期第 9 回理事会議事録（案）が提示され，全会一致で承認された。

#### 2. 入会承認の件

会員担当理事より，（資料:10-2-2）に基づき，正会員 1 名の入会申請が報告され，全会一致で承認された。あわせて，（資料:10-2-1）に基づき，平成 26 年度会員異動報告がなされた。

#### 3. その他

なし

### 協議事項

#### 1. 表彰規則の改定について

表彰担当理事より，（資料:10-3）に基づき，論文賞の受賞資格を明文化する趣旨の表彰規則の改定の提案があり，現在の授賞方針ならびに授賞対象の確認を行い協議した。著者全員が会員であることが必要かどうかの議論や条文の文章表現に関する意見があり，議論の結果を持ち帰り委員会にて再度検討を行った上で次回理事会に提出することとした。

#### 2. 学生優秀発表賞の創設について

表彰担当理事より，（資料:10-4）に基づき，学生優秀発表賞の創設について原案が示され，(1)賞の名称，(2)一般発表を対象とするものであるため，発表者の学生による貢献と連名者である教員による貢献との区別，(3)支部表彰との区別，(4)賞品の必要性，について協議した。学会活性化という点で賞創設の方針は承認され，議論の結果を持ち帰り委員会にて再度検討を行った上で次回理事会に提出することとした。

#### 3. 特別賞細則の改定について

表彰担当理事より，（資料:10-5）に基づき，協議事項 2 とあわせて特別賞細則への学生優秀発表賞の追加について提案された。協議事項 2 と同様に議論の結果を持ち帰り委員会にて再度検討を行った上で次回理事会に提出することとした。

#### 4. 表彰委員会の来年度予算案について

表彰担当理事より，（資料:10-6）に基づき，表彰委員会の来年度予算について，学生優秀発表賞の追加を前提とした予算案が示された。優秀学生賞および学生優秀発表賞について，現在の賞状と記念品（楯）という形式から表彰楯 1 つにまとめるという意見，優秀学生賞の副賞である入会金及び年会費を無料とする点については研究委員会の支出として記載するよう要請があり，協議事項 2 と同様に議論の結果を持ち帰り委員会にて再度検討を行った上で予算案を申請することとした。

#### 5. 研究委員会（研究部門）の来年度予算案について

研究担当理事より，（資料:10-7）に基づき，研究部門・研究プロジェクトを含めた研究委員会全体の予算案が示され協議した。全体の予算額が約 1 割減少したことで研究活動の活性化の縮小傾向を懸念する意見があったが，研究プロジェクト公募の応募件数が昨年より少なかったために結

果的に総額が減少となったことが説明された。関連してホームページへの各研究プロジェクト活動の掲載の報告や、部門をまたいだ学際的な研究ができる仕組み、企業研究等で各研究部門・研究プロジェクトが外部資金をとれるような工夫ができるとよいという意見があった。方向性としては承認され、次回理事会に向けて予算案を申請することとした。

## 6. 大会の運営について

大会担当理事より、(資料:10-8)に基づき、大会の運営について提案があり協議された。(1)特別セッション・研究部門セッションの参加費の取扱いについては、招待講師は特例として非会員は参加費無料で予稿集を渡し謝金支払いはなしとすることが提案され、招待参加者という枠を作りカウントすること、名札を渡し参加費無料とすることとした。同行者についても同様に大会・ネットワーク参加費を無料とするが、予稿集が必要な場合には実費で購入することとした。3人程度を目安とするが当面上限人数の設定はせず、研究委員会および大会委員会が連携して参加者の記録を残し、PDCAを回していくことが要請された。(2)講演時間の15分+5分以外の設定については、企業事例セッションを講演時間20分+質疑時間10分の計30分とし、1セッション2件とすることとした。ただし2015年春季大会については、講演時間30分+質疑時間40分の計70分とし、1セッション2件とすることとした。(3)活性化タスクからの提案について、英語セッションについては研究部門に要請し開催するのは継続が困難であるという意見があった。英語で発表できる場を確保しておくことが重要であり英語セッションという形式にはこだわらず、また研究部門が必ず英語での発表を行わなければならないということではないことが確認され、現状の英語発表を受け付けている仕組みを継続していくこととした。大会受付場所での入会受付については今後も現状と同様に継続していくことが確認された。(4)大会予稿集への広告費については、掲載料の案が示され、確認した。以上の4点を全会一致で承認した。

## 7. JIMA 論文誌 経営システム誌の販売価格について

編集担当理事より、(資料:10-9)に基づき、日本経営工学会論文誌ならびに経営システム誌の購入価格について、消費増税後も5%の消費税込み価格で販売されていたことが報告された。今後の消費増税の可能性も鑑み消費税抜きの金額に変更することが提案され、全会一致で承認した。

## 8. 2014年秋季大会ラウンドテーブルの結果について

副会長(活性化)より、(資料:10-10)に基づき、2014年秋季大会ラウンドテーブルで提案された企画内容のまとめの報告があった。会長が提案された内容を検討、具体化し次回理事会にて協議することとした。

## 9. その他

- 会長より、横幹連合の理事の改選について、皆川健多郎理事を推薦することの提案があり、全会一致で承認された。

## 報告事項

1. 会員担当理事に代わり庶務担当理事より、(資料:10-2)に基づき、退会について報告がなされた。
2. 大会担当理事より、(資料:10-11)に基づき、秋季大会およびEAWIE決算について報告がなされた。見積内訳書の参加・投稿システム構築・運営費(新規)について、今後同様の国際会議開催に際して流用可能なシステムを作成しており、次回以降は新規構築費用は発生しないことが確認された。来年はKIIEで開催する予定である。また、今回のような大会と同時開催の際は、両方で別々の決算とすることを意識して参加費の設定を考えたほうが良いとの意見があった。
3. 大会担当理事より、(資料:10-12)に基づき、2015年全国大会について報告がなされた。
4. 国際渉外担当理事より、(資料:10-13-1)に基づき、協賛行事他委員会報告事項について報告がなされた。また、(資料:10-13-2,10-13-3)に基づき、国際化タスクより検討依頼のあった国際渉外委員会からの提言と報告について報告がなされ、次期への引継ぎに向けて各関連部門で情報共有するようとの依頼があった。
5. 編集担当理事より、(資料:10-14)に基づき、掲載料・別刷代請求一覧について報告がなされた。報告内容の入金額および入金日は未入金者の一覧であることから常に空白であるため削除し、

請求日を追加して欲しいとの要請があった。

6. その他

- 編集担当理事より、(別紙:10-15)に基づき、日本経営工学会論文誌特集号「人間工学的なアプローチと展開」和文論文募集について報告がなされた。
- 庶務担当理事より、第33期役員及び代議員選挙の経過について報告がなされた。役員についても推薦委員会が必要ではないかという意見があり、選挙終了後の次回以降の理事会にて改めて選挙の総括を行い、その中で議論することとした。また選挙規則第10条、役員立候補者不足時に立候補受付期間を延長する条文において「理事の立候補者数が」と規定されている部分を「役員の立候補者数が」に修正すべきとの指摘があり、これについても併せて検討することとした。

※次回第32期第11回理事会は、平成27年3月14日(土)15:00~18:00、慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館5階大会議室にて開催する。

議 長 河野 宏和 印

議事録署名人 水山 元 印